

事務事業名 県指定天然記念物「立明寺のタブノキ」保存事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1783

施策：	06	歴史の継承と文化の振興	財務コード	--
基本事業：	01	文化財の保護・利活用の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	市内の文化財指定件数（累計） 市民等が触れることができるよう整備活用されている史跡等の数（累計）		担当課	文化財課
			担当係	保存活用担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成28年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市内の文化財			県指定天然記念物「立明寺のタブノキ」を適切に保存するため、適宜有識者の指導を受けています。樹齢200年程度で、木の成長段階として樹形が上部ではなく、横へ成長する時期に入っているため、概ね5年毎に剪定を行い、上部の落枝の防止（周辺の安全確保）と樹勢を維持しています。 （これまでの対応）福岡県文化財保護事業補助金（補助率50%） 平成28年度：樹木医の鑑定・枝打ち・消毒 平成29年度：木の成長を妨げないよう壁の切り取り工事と解説板設置 歳入：福岡県文化財保護事業補助金（補助率50%） （令和6年度の対応） 指定木の環境整備（電線切断防止、落枝を防止することで通学路の安全確保）のために剪定した。 令和6年度：剪定 歳入：福岡県文化財保護事業補助金（補助率50%）						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
対象文化財を保護し、活用を図ります。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
			実績	実績	当初	要求	計画	計画	
事業進捗割合									
5. コスト									
事業費		計	千円		770				
		国	千円		0				
		県	千円		385				
		地方債	千円		0				
		その他	千円		0				
		一般	千円		385				
正職員人工数		人工		0.2					
正職員人件費		千円		1,605					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円		2,375					
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている		令和6年度に電線に係る部分や、落枝の危険がある箇所を剪定を行うことで、環境を改善しました。また、通学路等の道路の安全も確保されました。							
どちらかといえばあがっている									
あがっていない（停滞・低下）									
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
県指定天然記念物として、今後も樹木医等の有識者の指導を受けながら、管理計画書にもとづき、概ね5年周期で剪定を行い、適切に保存していきます。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
樹木医等の有識者の指導を受けながら、概ね5年周期で剪定を行うことで、県指定天然記念物として樹勢を維持し、落枝等の環境の改善を図っています。平成29年度には解説板を設置し、文化財としての情報を発信できるようになりました。					福岡県文化財保護事業の「県指定天然記念物再生事業」補助金（補助率50%）				

事務事業名 文化財施設災害復旧事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1887

施策：	06	歴史の継承と文化の振興	財務コード	01100301-01-835
基本事業：	01	文化財の保護・利活用の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	市内の文化財指定件数（累計） 市民等が触れることができるよう整備活用されている史跡等の数（累計）		担当課	文化財課
			担当係	保存活用担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
国史跡をはじめとする被災文化財			（令和6年度） 国史跡阿志岐山城跡内で、令和5年7月集中豪雨による土砂崩れが発生しました。二次災害や時間の経過に伴って毀損が拡大することで、当該文化財の歴史的・学術的価値が損なわれる恐れがあるため、早急に被災箇所の復旧に取り組みました。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			（令和7・8年度） 令和5年7月の集中豪雨で被災した市史跡原口古墳については、周辺の安全確保と文化財の保全の両立を図る工法の選択に時間を要しており、令和7年度に測量・設計、令和8年度に工事施工の予定で事業を進めています。						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
市内の文化財指定件数		件							
5. コスト									
事業費		計	千円		12,783	10,509	55,465		
		国	千円		8,948	0	0		
		県	千円		1,533	0	0		
		地方債	千円			0	0		
		その他 一般	千円		2,302	10,509	55,465		
正職員人工数		人工		0.7	0.1				
正職員人件費		千円		5,616	838				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円		18,399	11,347	55,465			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		毀損した文化財の災害復旧工事を行うことで、重要な文化財を保護し、文化財および周辺の被害拡大を防ぐことができました。そのため、指定文化財を適切に後世へ伝えられるようになりました。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	増加	類似事業	なし	< 状況 > < 原因 > < 課題 > 近年、記録的な集中豪雨の発生が続き、今後も史跡の被災が懸念されます。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
巡視などで被災状況の早期に情報把握を行い、補助取得などを行い、適切に文化財が保存されるよう災害復旧に努めます。					文化財にとって被災しそうななどの危険箇所については、日頃の巡視で情報を収集します。				
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
近年の集中豪雨により各史跡が被災しており、災害復旧事業に取り組んでいます。 平成30年度・令和6年度：国史跡阿志岐山城跡 令和元年度：特別史跡基肄城跡 令和7・8年度に市史跡原口古墳					令和6年度 国史跡阿志岐山城跡の災害復旧事業（補助金） 国（文化庁） 歴史生き生き！史跡等総合活用整備補助金（災害 補助率70%） 福岡県 文化財保護事業補助金（災害 補助率12%）				

事務事業名 国指定史跡阿志岐山城跡保存活用計画策定事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1993

施策：	06	歴史の継承と文化の振興	財務コード	--
基本事業：	01	文化財の保護・利活用の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	市内の文化財指定件数（累計） 市民等が触れることができるよう整備活用されている史跡等の数（累計）		担当課	文化財課
			担当係	保存活用担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	令和06年度 ~ 令和07年度		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民・関係者・関係機関			史跡の保存整備事業の基礎となる「史跡阿志岐山城跡保存活用計画」について、有識者で構成した計画策定委員会を設置して策定します。計画内容については、関係者等や文化庁・福岡県とも協議します。 (令和6年度) 予定通り事業に取り組みました。 計画策定委員会 3回実施、地権者説明会 1回実施 関係者協議 適宜実施 (令和7年度) 計画策定委員会 4回予定 パブリックコメント実施の後、計画を策定します 計画策定後に、文化庁長官認定を申請します。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
国史跡阿志岐山城跡が有する価値や、史跡の現状と課題を分析・整理し、史跡を適切に保存活用するための方針を「保存管理、調査・研究、活用、整備、運営・体制」の項目で示します。この方針を、史跡の関係者、関係機関で共有し、国史跡阿志岐山城跡を後世にわたって適切に守り伝え、市民に親しんでもらえるようにします。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
市民等が触れることができるよう整備活用されている史跡等の数									
5. コスト									
事業費		計	千円	2,000	3,970				
		国	千円	1,000	1,985				
		県	千円	300	300				
		地方債	千円		0				
		その他	千円		0				
正職員人工数		人工		0.7	1				
正職員人件費		千円		5,616	8,381				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円		7,616	12,351				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		< 状況 > 令和6年度の事業は滞りなく進捗し、計画の策定が進んでいます。 < 原因 > < 課題 >							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	< 状況 > < 原因 > < 課題 >					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
史跡の保存活用のため、多くの関係者・関係機関との協議に時間を要していますが、丁寧に対応しています。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
国史跡の保存活用のため、各史跡の保存活用計画が文化財保護法に基づく計画に位置付けられました。					対象補助： 国文化庁 史跡等保存活用計画等策定補助金（補助率50%） 福岡県 文化財保護補助金（定額）				

事務事業名 ちくしの歴史・文化発信事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：694

施策：	06	歴史の継承と文化の振興	財務コード	01090608-03-570
基本事業：	02	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	博物館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民、在勤・通学者、福岡都市圏住民 教育・研究機関 歴史、文化・芸術関係団体			<p>常設展は、通年展示しており、古くから交通の要衝としてさまざまな人やモノの交流があった本市の特徴を生かして「交易と旅」をテーマとし、原始から近代に至る「通史」を展示</p> <p>企画展は、2回実施 古文書からの伝言其の五「号外が伝える日清・日露戦争」展 「筑紫野市のうつりかわり」展</p> <p>ロビー展示は、9回実施 日本遺産古代日本の「西の都」のストーリー・発見30年 岡田地区遺跡の古代官道ほか</p> <p>学習支援は、主催講座・イベント32回実施、小学校や地域等への職員の派遣24件、博物館ボランティアの活動支援、SNSを活用した「名品選」(X：旧Twitter)による学習情報の発信、小学校への昔の道具の貸出し、パッケージ資料の製作と貸出しを実施</p>						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			<p>地域への理解を深め、市民の自治能力の向上を図ります。市民に対し、学習意欲の喚起を促し、地域学習の推進を図ります。</p> <p>市の施策・事業や市民活動に対し、資料提供、助言を行うとともにこれを支援します。</p> <p>学校教育に対し、資料提供及び教育支援を行います。</p>						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
問い合わせへの学習支援数		回	619	657	700	700			700
来館者数		人	13,808	15,639	16,000	16,000			16,000
5. コスト									
事業費		計	千円	1,492	1,014	1,835	1,946		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他 一般	千円	0	0	0	0		
正職員人工数		人工	1.5	1.5	1.5				
正職員人件費		千円	11,723	12,035	12,572				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	13,215	13,049	14,407	1,946			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
<p>あがっている</p> <p>どちらかといえばあがっている</p> <p>あがっていない（停滞・低下）</p>	<p>令和6年度は、企画展2回、ロビー展9回を実施しました。近隣では珍しい古文書の展示も5回目を実施しました。また、岡田地区遺跡の官道が発見から30年を迎えたことを記念し、記念講演会とロビー展を実施しました。小学校の昔の道具体験を博物館で開催するとともに、昔の道具の貸出しも継続し、学校の事情に応じた学習支援を行いました。</p> <p>SNSで学ぶ歴史と文化事業については、5年目を迎え、郷土の民俗「名品選」をX（旧ツイッター）により学習情報として発信し、また、文化財課職員による歴史講座を全10回実施しました。</p>								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし		<p>収蔵資料に精通し、多分野の資料を適正に取り扱い、企画展や学習支援が行える博物館学芸員が不在です。</p> <p>また、近世から明治期にかけての文書・古記録を多く有する本市において、それらの目録の作成及び活用ができる博物館職員が必要です。</p> <p>収蔵資料の活用、学習の機会提供を継続して行うためには、専門の知識を有した正規の学芸員の配置が必要です。</p>				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改善案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）			改善方向性		維持 見直し 廃止 事業終了				
<p>常設展については、開館から27年を経過し、映像機器、照明機器及び展示設備に老朽化による不具合が生じ、見学に支障が出ています。</p> <p>常設展のリニューアルに向け検討が必要。</p>			<p>博物館を含む文化財課のホームページをリニューアルし、来館しなくても様々な情報や学習情報を提供できる環境を整えることで、市民の歴史学習の機会を得るための選択肢が増え、また、利便性が高まると考えます。リニューアルに向け検討が必要。</p> <p>当面は、SMSを利用した学習情報の発信や貸出資料のパッケージ化などを今後も検討を重ね進めていきたい。</p>						
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）			備考・特記事項 or 進行管理欄						
<p>これまででは、企画展示や講座等を行い博物館が郷土の歴史や文化について発信することが主でした。</p> <p>近年は、地域のコミュニティが地元の歴史や文化について積極的に事業を展開しており、その支援を行うことが増えています。</p>									

施策：	06	歴史の継承と文化の振興	財務コード	01090608-04-571
基本事業：	02	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	博物館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分	実施計画					
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）								
市民や市外住民 教育・研究機関 団体・グループ			市民の財産である郷土の文化財を収集し、恒久的な保存を図ります。収集された資料の活用を図るため、整理作業（目録の作成や台帳の整備）を行います。 市民の学習や社会活動に必要な歴史・文化資料を収集し、資料を活用できる状態に整理・整備を行います。 貴重なもの、状態が悪いものは、日常的に修復、レプリカを製作し、保存・活用を図ります。 文化財IPM（総合的有害生物管理）に基づく日常管理を行い、資料を適切に保管します。								
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）											
資料を収集し、適切に保存・管理を行い、貴重な文化財を後世に伝えていきます。また、整理及び日常的な修復を行い活用できる状態にします。											
4. 成果（簡易評価は未記入）											
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標		
収蔵点数		点	250,295	253,157	255,000	255,000					
活用点数		点	1,344	1,811	1,000	1,000					
5. コスト											
事業費		計	千円	1,022	1,234	1,081	984				
		国	千円	0	0	0	0				
		県	千円	0	0	0	0				
		地方債	千円	0	0	0	0				
		その他 一般	千円	0	0	0	0				
正職員人工数		人工	0.3	0.3	0.3						
正職員人件費		千円	2,345	2,407	2,514						
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	3,367	3,641	3,595	984					
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）											
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		大賀家文書については、令和2年度から令和5年度に目録を作成（R2:4,200点、R3:4,770点、R4:3,825点、R5:5,107点）し、その成果を企画展で広く市民に公開しています（R2年度～）。 郷土資料の収集については、収蔵するスペースに限りがあるため、寄贈時等に文化財としての価値を慎重に判断しながら行っています。収集した資料は、総合的有害生物管理（IPM）に基づき、モニタリングの結果を検証し、日常の清掃に反映させ、適正な環境管理を行い、虫の食害から守っています。 また、保存すべき資料と学習支援に活用する資料を区分し、学習支援に用いる資料については、パッケージ資料を製作して貸し出すなど、活用の充実に努めています。									
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）											
対象動向	維持	類似事業	なし		郷土の歴史・文化を継承する上で必要不可欠な資料を収集し、考古・民俗・歴史・美術・地図・絵図・映像・音響・自然・図書・学芸参考の10分類を行い、資料検索システムにより管理しています。 最大の課題は、資料を適正に整理、管理ができる、経験があり資料に精通した博物館学芸員が不在であることです。 今後、資料の受入れや整理、適正な管理に支障が出るおそれがあります。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし								
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし								
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり								
成果向上余地	大きい										
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）											
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）				改善方向性				維持	見直し	廃止	事業終了
古文書に特化した展示会を開催している近隣の市はなく、古文書は、本市の目玉となる資料の一つです。 業務に精通した学芸員を設置することで、今後も継続して整理を行い、成果を公開することができます。				館内の温湿度管理については、既存のシステムが数年前から故障しており、現在、職員が巡回し記録しています。 常設展示室内の特に細かな温湿度管理が必要なものについては、部分的に観測機器を設置し、温湿度管理をしています。 適正な展示・保存環境の維持のため、温湿度管理システムの更新が必要です。							
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				備考・特記事項 or 進行管理欄							
地域の歴史・文化の学習、市民活動に供するため、資料を収集し、適切に保存・管理しています。 都市化により、文化遺産は失われつつある一方、市民の地域文化に対する意識は高まり、文化財・文化遺産等の資料や情報の提供要望が増えています。											

施策：	06	歴史の継承と文化の振興	財務コード	01090608-07-572
基本事業：	02	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数		担当課	文化財課
	歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当係	博物館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成13年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市内外からの見学者		国史跡五郎山古墳及び古墳館における下記の事業を行い、学習の場としての適切な公開活用を図るとともに、見学者等の学習要求に応え、館の運営を行います。開館時間（9時から17時まで、月曜日休館）、入館料無料 古墳の出土資料等の見学・学習映像の視聴 可動式実物大模型による古墳石室体験・細部見学 タッチパネルによる装飾古墳の学習 学校休期間における装飾古墳等に関するイベントの実施（ストローを管玉に見立てたアクセサリ、壁画の文様を貼る菜の作成他） ストーンアートについては、博物館で実施 小学校等の団体見学 装飾古墳関係図書閲覧・解説パンフレット（多言語）等の提供				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
五郎山古墳をはじめ、九州の特徴でもある装飾古墳への公開活用を行い、地域の歴史・文化の学習意欲を喚起し、地域の歴史文化に対する理解を深めます。						

4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称	単位	05年度実績	06年度実績	07年度当初	08年度要求	09年度計画	10年度計画	目標	
来館者数	人	4,410	4,607	5,000	5,000				
装飾古墳アートイベント参加者	人	795	1,210	700	700				
5. コスト									
事業費	計	千円	8,530	10,009	10,750	12,120			
	国	千円	0	0	0	0			
	県	千円	0	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0			
	その他一般	千円	0	0	0	0			
正職員人工数	人工	0.3	0.3	0.3					
正職員人件費	千円	2,345	2,407	2,514					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	10,875	12,416	13,264	12,120				

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	令和6年度の来館者数は4,607人で、昨年度の4,410人と比べ197人増加しました。特に子どもが1,424人から1,724人と300人増となりました。 しかし、石室保護のため石室一般公開の中止（H30:215人）や、タッチパネルを2基設置したことにより従来のイベントスペースが確保できない（現在:6席のみ）ため、以前の入館者数には及びません。 イベント以外の来館者を増やすため、PRチラシの製作に加えて、博物館でのストーンアートの実施、パープルプラザフェスタで五郎山古墳ブース設置する（R4から）など、五郎山古墳館の利用の促進を図るための事業を展開しています。								

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	地域の歴史文化の理解を深め、学習意欲を喚起していくことを目的とした学習施設（五郎山古墳ガイド施設、市歴史博物館分館）と位置づけられており、利用料については、無料としています。 さらに入館者増を図るためには、石室一般公開に代わる五郎山古墳（館）での新たなイベントの検討が今後必要と考えます。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	--	--	--	--	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
市内在住者の来館を増やすためには、地元の原田地区以外の地域での認知を高める必要があります。 今後も継続して博物館でストーンアート等の体験イベントの実施や、パープルプラザフェスタで五郎山古墳ブースを設置するなど、広く市民に装飾古墳の魅力を伝え、古墳館への来館を促したい。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
平成13年度開館。 平成28年度から令和元年度 保存整備事業を実施。 （古墳館の映像設備等の改修は、令和元年度に実施） 令和3年5月18日で開館20周年					石室保護のため、令和2年度から実物古墳石室の一般公開を中止				

事務事業名 五郎山古墳館改修事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1994

施策：	06	歴史の継承と文化の振興	財務コード	--
基本事業：	02	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
市内外からの見学者			施設、設備等の営繕、改修等 来館者の安全と学習施設としての利用促進のため、施設、設備等の営繕、改修を行います。 令和6年度の主な改修等 五郎山古墳館の屋根の改修を行いました。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
来館者の安全の確保と学習施設としての利用促進が図れるよう老朽化した五郎山古墳館の施設、設備等を整備します。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標	
来館者数										
5. コスト										
事業費		計	千円	14,121						
		国	千円	0						
		県	千円	0						
		地方債	千円	0						
		その他	千円	0						
		一般	千円	14,121						
正職員人工数		人工		0.1						
正職員人件費		千円		802						
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円		14,923						
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		令和6年度は、古墳館の屋根の改修を行いました。 開館から24年が過ぎており、今後も、筑紫野市公共建築物長寿命化計画に基づき、施設、設備等の計画的な改修等を行っていきます。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	空調設備の室外機にさびが発生し、使用している冷媒が生産終了となったため、修繕できない可能性があります。当該設備については、見学者、職員等に支障が出ないように、できる限り早い更新工事を希望します。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	あり							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）										
平成13年5月に開館し、施設、設備等に経年劣化による不具合が発生しています。					備考・特記事項 or 進行管理欄					

事務事業名 収蔵資料修復事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1995

施 策：	06	歴史の継承と文化の振興	財務コード	--
基本事業：	02	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民、市外住民、団体（寄贈者、寄託者を含む。）			収蔵資料の修復、修理を行う。 根拠法令 ・博物館法 ・文化財保護法 ・筑紫野市歴史博物館設置条例						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			令和6年度に修復等を行った収蔵資料 紙本著色宝満山入峯絵巻						
収蔵資料を修復、修理を行いながら、適切な保護、保存を行うことにより、文化財を後世に伝えていきます。 修復、修理を行った収蔵資料を公開することで市民等の本市文化財への認知及び関心を高めていきます。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
活用点数									
5. コスト									
事業費		計	千円	3,042					
		国	千円	0					
		県	千円	0					
		地方債	千円	0					
		その他 一般	千円	3,042					
正職員人工数		人工		0.2					
正職員人件費		千円		1,605					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円		4,647					
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		紙本著色宝満山入峯絵巻の修復を令和6年度に行いました。今後も、柚須原の木造聖観音坐像等必要な物の修復、修理を行い、収蔵資料のさらなる活用を図りたい。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	修復を行っていくためには、今在籍の学芸員に加え、収蔵資料に精通し、適切にその資料を整理、管理ができる学芸員が必要と考えます。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）									
地域の歴史・文化の学習、展示等に供するため、文化財を後世に伝えていくため、収蔵資料を適切に保存、管理を行う必要があります。 市民、研究機関等から、文化財の資料や情報の問い合わせ、提供の要望が日々寄せられています。									
備考・特記事項 or 進行管理欄									

事務事業名 ちくしの子ども劇場補助事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：608

施策：	06	歴史の継承と文化の振興	財務コード	01090608-09-574
基本事業：	03	芸術文化活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	子育て世代の親子を対象とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数 文化会館を拠点とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

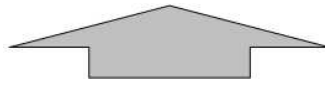
計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
ちくしの子ども劇場			<p><概要> ちくしの子ども劇場は、昭和55年に福岡子ども劇場から独立、平成13年にNPO 法人となった。文化芸術活動、自然体験、異年齢集団遊びなどを通して、地域の中で子どもたちがいきいきとした子ども時代を過ごせる環境づくりを目指して活動する団体である。</p> <p><主な事業> 子ども市、子どもキャンプ、地域活動、子どものための優れた舞台芸術に関する事業、表現活動に関する事業、子どもの権利条約普及啓発事業、子育て支援</p> <p><補助対象事業> 社会教育振興事業補助金として、子どものための優れた舞台芸術に関する事業に対し交付している。</p>							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			子ども市、子どもキャンプ、地域活動、子どものための優れた舞台芸術に関する事業、表現活動に関する事業、子どもの権利条約普及啓発事業、子育て支援							
対象の事業を推進し、子どもたちの文化芸術への関心を高め、文化芸術活動への参加意欲を喚起する。さらには、子どもたちが、文化芸術に触れることで、豊かな感受性を育まれることを目指す。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標	
補助対象事業への参加人数		人	1,304	1,703	1,500	1,800			2,200	
5. コスト										
事業費		計	千円	100	100	100	100			
		国	千円	0	0	0	0			
		県	千円	0	0	0	0			
		地方債	千円	0	0	0	0			
		その他	千円	0	0	0	0			
一般	千円	100	100	100	100					
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1					
正職員人件費		千円	782	802	838					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	882	902	938	100				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている	<p><状況>補助対象事業については、公演数については、昨年度と比べ1公演多い11公演であった。<R4/11公演：R5/10公演：R6/11公演>参加人数は、年々増加している。</p> <p><原因>昨年度より1公演増え、11公演の実施となった。多人数向けの公演内容が増えたため、参加者は昨年度より増加している。</p>									
どちらかといえばあがっている										
あがっていない（停滞・低下）										
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	子どもたちの発達に沿った生の舞台公演をはじめ、地域活動を実施。子どもたちの芸術に親しむ機会を提供し、親子で芸術文化活動への参加意欲を高めた。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
<改革案> 平成29年度から補助対象事業を舞台芸術鑑賞に関する事業とし、その参加状況を成果指標とした。団体予算に対する補助事業の割合は約43%を占めるため、今後も参加者の減少が進めば補助対象事業の縮小が懸念される。開催頻度や舞台の質を維持するために、補助金を有効活用したい。					<必要性> 優れた芸術家を安価で招くなど、プロデュースは県下の子ども劇場随一と言われており、文化施設からも高い評価を得ている。チャリティーコンサートでは、文化会館を満席にした実績がある。本市の文化芸術振興には欠かせない団体である。					
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄					
平成13年「子どもたちが地域の中で、豊かに生き生きとした子ども時代を過ごすための環境づくり」を目指し法人として設立された。					小学校への芸術家派遣事業（アウトリーチ）を検討する中で、芸術家と学校との調整を行うコーディネーターの役割を担ってもらいたいと考えている。					

事務事業名 市文化協会補助事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：622

施策：	06	歴史の継承と文化の振興	財務コード	01090608-10-575
基本事業：	03	芸術文化活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	子育て世代の親子を対象とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数 文化会館を拠点とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和59年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画	
1. 対象 (誰、何に対して事業を行うのか)			2. 手段 (事務事業の内容、やり方、手順)					
筑紫野市文化協会			<概要> 筑紫野市文化協会は、昭和59年の設立以来、文化団体相互の交流・育成を図りつつ、広く市民に文化芸術の振興と本市における文化意識の高揚を目的とする団体である。 <主な事業> 「ちくしの芸術祭」の主催、福岡 ブロック(筑紫地区および糸島市)「芸術の祭典」への参加、先進地視察研修 <補助対象事業> 社会教育振興事業補助金として、広く市民が芸術に触れる機会である「ちくしの芸術祭」に対し交付している。					
3. 意図 (この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)			・筑紫野市文化協会への加盟団体が増加し、市民の芸術文化事業が盛んになる。 ・安定した運営がおこなわれる。 ・次世代を担う人材が育成され、未来に渡り文化団体の活動が継続している。					
4. 成果 (簡易評価は未記入)								
成果指標名称	単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
加盟文化団体数	組織	37	36	38	38			38
「ちくしの芸術祭」への参加人数	人	2,668	3,471	2,700	2,700			2,700
5. コスト								
事業費	計	千円	200	200	200	200		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	200	200	200	200			
正職員人工数	人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費	千円	782	802	838				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	982	1,002	1,038	200			
6. 成果状況及びコメント (簡易評価は未記入)								
あがっている	<状況>前年度と比較し加盟団体数は1団体減少している。「ちくしの芸術祭」への参加人数は807人増加している。 <原因>文化協会は団体の加入促進を行っているが、会員等の高齢化による団体活動の解散があっている。「ちくしの芸術祭」は、令和6年度を40周年記念祭としてゲストを招待したイベント等を実施したことにより、参加人数が増加している。							
どちらかといえばあがっている								
あがっていない (停滞・低下)								
7. 評価及びコメント (簡易評価は未記入)								
対象動向	維持	類似事業	なし	会員の高齢化等により、次世代への育成を図る必要がある。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし					
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり					
成果向上余地	中程度							
8. 改善改革案 (簡易評価は必要な場合のみ記入)				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用 (維持/事業終了の場合は記入する必要なし)								
令和5年度に新たな事業として、市役所ギャラリーでの「美術学芸展」を開催した。「ちくしの芸術祭」と併せて、継続的な実施を行う必要がある。また、市民が文化・芸術に触れる新たな機会を創設する必要があると思われる。								
事業開始背景及び現在の環境変化 (市民・議会等の要望)				備考・特記事項 or 進行管理欄				
昭和59年の文化会館建設時に関係団体として申請し、芸術文化の振興・育成のために補助を開始した。加盟団体の会員だけでなく、多くの市民が芸術文化に親しむことができるような事業や行事の実施が望まれている。								

事務事業名 人形劇のあるまち推進事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1070

施策：	06	歴史の継承と文化の振興	財務コード	01090608-11-576
基本事業：	03	芸術文化活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	子育て世代の親子を対象とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数 文化会館を拠点とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成15年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
ちくしの人形劇まつり実行委員会			平成15年度のプレ国民文化祭を契機に始めた事業である。人形劇の観劇を通して、子どもたちの感性を育むため、子どもに関する団体や劇団を中心に実行委員会を組織し開催している。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			開催時期：例年11月末から12月初 開催場所：文化会館 演目数：プロ劇団 / 1劇団 アマ劇団 / 7~9劇団 開催までのスケジュール： 5月 / 実行委員会（予算、スケジュール等確認） 7月~9月 / 運営委員会（劇団の確認、プログラム作成等） 10月 / 運営委員会（チケット販売等確認）・チラシ配布 11月 / 運営委員会（当日の確認等確認）・チケット販売							
人形劇に親しみ、特に実際の社会体験を積むことができない就学前の子ども達が劇に入り込むことにより社会経験を積み、豊かな情操を育て、社会規範を身につける。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標	
人形劇まつり来場者数		人	1,008	1,261	700	700			700	
5. コスト										
事業費		計	千円	695	725	800	800			
		国	千円	0	0	0	0			
		県	千円	0	0	0	0			
		地方債	千円	0	0	0	0			
		その他	千円	0	0	0	0			
一般		千円	695	725	800	800				
正職員人工数		人工	0.7	0.7	0.7					
正職員人件費		千円	5,471	5,616	5,867					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	6,166	6,341	6,667	800				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		令和5年度以降、コロナ禍以前の規模での開催を行っており、参加者は増えている。また、20年以上続けている事業であり、アンケートで、「子どもの頃に参加していた方が親になり、親子2代で参加している」等、本事業が市民に認知されていると考えられる。令和7年度も文化会館を会場に企画検討を行っていく。また併せて、今後の人形劇まつりの開催等について、実行委員会で引き続き協議を行っていく。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	演じる劇団員、企画運営を行う実行委員ともに高齢化しており、人形劇存続のためには次世代育成が課題となる。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
人形劇まつりの開催方法、開催場所、内容等について実行委員会での検討を行っていく。また、実行委員、劇団員が高齢化しており、次世代育成も併せて検討を行っていく。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
平成15年度のプレ国民文化祭を契機に始めた事業である。平成17年度以降は県民文化祭の事業として行っているが、県の助成金は平成23年度で終了した。一方、子どもの教育への関心は年々高まり、また、人形劇を文化として根付かせ、地域づくりに活かしていきたいという声がかかれ、その機運が高まりつつある。										